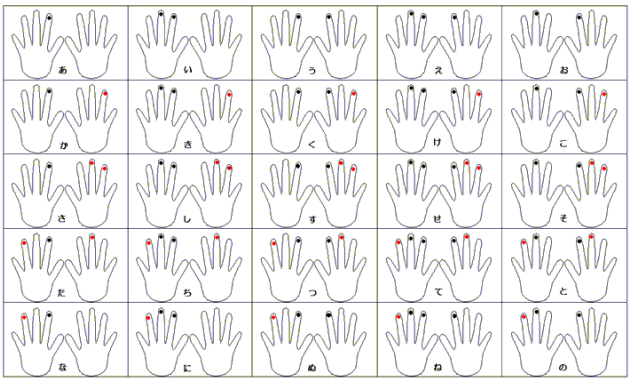
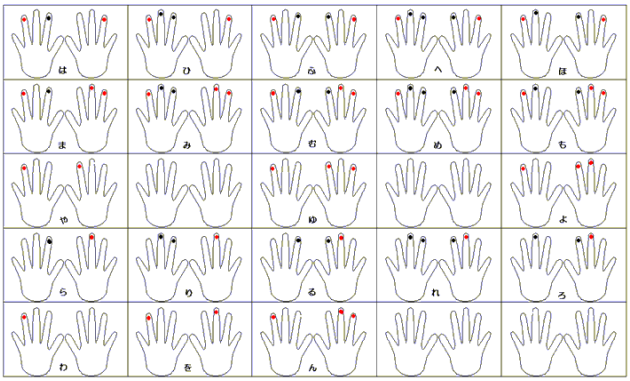
なぜ重複障害者は就労がとても難しいのか

重複障害とは複数の障害を併せて有する状態のことをいう。例えば、視覚障害と知的障害や発達障害を併せて有するものは盲重複障害といい、視覚障害と聴覚障害を併せて有するものは盲ろう障害という。ここでは盲ろう者を例に説明していこうと思う。盲ろう者はコミュニケーションを取るには、触覚を主に使う。指の上に点字を打つ指点字や手話を触って会話をする触手話などがある。これらのコミュニケーション法は会話をするのにとても時間がかかってしまい、就労して周囲と連携を取るのがとても難しい。さらに盲ろう者には必ず付き添い者が必要で働くことだけでなく出勤することもとても厳しい。だから、私の考えとしては支援する人は、盲ろう者をはじめとした重複障害者をどのようにして就労させて、経済的に暮らせるように支援するのかを考えるのではなく、重複障害者が周囲の人とよりスムーズにコミュニケーションがとれるようになったり、着替えが補助なしでできるようになったりするなど身の回りのことで 1 人でできることを 1 つでも増やせるように支援することが現実的だと思う。そうすることで重複障害者の家族の負担が減り、家族がその分精神的にも余裕がでて、仕事により集中し、給料もよくなるのではないかと私は考えた。私が一番伝えたいことは、重複障害者の就労が難しいことが必ずしも悪いというわけではないということだ。

指文字

指点字　パーキンス式　５０音　　by Macky's House　http://www1.u-netsurf.ne.jp/~macky/